

校種	(<input checked="" type="radio"/>) 小学校 (<input type="radio"/>) 中学校 (<input type="radio"/>) 義務教育学校 (<input type="radio"/>) 高等学校 (<input type="radio"/>) 特別支援学校
学校名	山鹿市立 八幡小学校
実践事例タイトル	学校CMSを用いた家庭への情報発信
テーマ	(<input type="radio"/>) 授業でのICT活用事例 (<input type="radio"/>) 校務でのICT活用事例 (<input type="radio"/>) 情報モラル教育の実践事例 (<input checked="" type="radio"/>) その他
活用した機器等	学校CMS

1. 実施の概要

令和元年3月2日から現在（令和2年11月2日時点）において、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業を受け、学校CMSを用いた学校からの情報発信、家庭学習のための家庭学習計画表の作成、および、学習支援コンテンツの充実を図った。学校再開後も家庭学習計画表は夏季休業中の家庭学習として再活用した。現在でも、情報発信は定期的に継続して行っている。

2. ICT活用の視点

学校CMSを利用した情報発信として、学校に関わる連絡や重要文書の通知、子どもたちの活動の紹介、いじめアンケートや学校評価アンケートの結果掲載、熊本県教育広報誌「ばとん・ばす」へのリンク作成等を行った。

また、学習支援コンテンツの充実のため、茨城県教育委員会や株式会社小学館に連絡を取り、「茨城県教育委員会いばらきオンラインスタディ（小学生）」や「小学館『うちスタ』（令和2年5月8日（金）～令和2年9月7日（月）4ヶ月間）」が利用できるようにして、児童の家庭学習の習慣形成を図った。

3. ICT活用の効果

臨時休業中に、学校からの正確な情報をできるだけ多くの人に短時間で見てもらうためには学校CMSを活用した「学校ホームページ」が一番有効であると考えた。多くの保護者に正確な情報を一斉に発信することができ、保護者の不安を軽減できたと考える。教師からの応援メッセージを児童に向けて発信することで、家庭においても、児童が心理的に孤立しないよう支援を行った。また、家庭学習計画表を各学年および特別支援学級のすべての学級で作成し、1週間後の登校日に確認することで、どの児童でも家庭学習の習慣形成が図られるよう配慮した。家庭

に協力を依頼し生活リズムの確立や子どものストレスチェックを行ってもらうことで心の健康にも配慮した。その効果もあり、ほとんどの児童が家庭学習を計画通りに進められ登校日に元気に登校する姿が見られた。また、家庭学習の内容は、授業内容を先行して作成していたため、学校再開時の授業へのスムーズな移行に結び付き、児童にとっても無理なく授業に臨め、また、授業を受けることで理解がより深まった。さらに、夏季休業中の家庭学習は、これまで市販の「夏休みの学習」等を各学年で購入していたが、家庭学習計画表で作成した内容を再度夏季休業中の課題として利用することで、保護者の経済的負担軽減や教師の仕事量の軽減にも役立ち、より子どもと向き合う時間を確保することができた。

次に、学習支援コンテンツの効果について述べる。学習支援コンテンツは国や県から提示された学習支援教材とのリンクづけはもちろん、「茨城県教育委員会いばらきオンラインスタディ（小学生）」や「小学館『うちスタ』」など本校独自に交渉し、本校ホームページのリンク掲載の承諾を取った。「茨城県教育委員会いばらきオンラインスタディ（小学生）」では、国語科において、使用教科書が本校と同じであるため、教科書の順番通りに動画やワークシートが作成されており、子どもが一人で動画を見ながら学習できるように構成されている。このサイトは児童の活用だけでなく、教職員においても教材研究に役立った。「小学館『うちスタ』」は児童にも広く知られているアニメのキャラクターが問題に使用してあり、楽しく家でも学べるようになっている。実際、児童に聞いてみると、問題をダウンロードして解いたという児童もおり現在も利用している児童もいた（現在は、学校ホームページとのリンク契約は終了しており、各家庭での利用になっている）。本校ホームページに閲覧した数をカウントする「カウンター」が備わっているが、臨時休業中は多いときで1日200件、通常130件ほどの閲覧があった。

4. 今後の展開

臨時休業中の情報発信は2日に1回のペースで配信したが、現在は、1～2週間に1回程度のペースでの配信となっている。6年前、私が本校に赴任した時のカウンター数は2000件であった。現在では58、700件にもなっている。本校保護者や地域の方々の期待の表れと受け止めている。今後は、児童の頑張り、教師の頑張り、学校および地域のよさ、勢いが伝わるような配信に心掛け、学校ホームページ作成を行う所存である。